

令和2年度 学校経営シラバス

めざす学校像	めざす生徒像
地域の担い手育成高校 (1)様々な教育活動において地域との連携を深化させ、地域の信頼を高める (2)主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む (3)生徒の自主性・自立性の伸張を図り、自己指導能力を育成する	「志」を持ち、「生きる力」を身につけた生徒 (1)挨拶・言葉遣い・身だしなみ・日常生活におけるモラルを身につける (2)「志」を持ち、目標に向かって主体的に取り組む (3)健全な自尊心、自己肯定感を高め、「生きる力」を習得する

■教育活動については、「目標」と「目標達成のための視点」をもとに、分掌、年次、委員会等においてシラバスを策定する。

領域	対象	目 標	目標達成のための視点
教育活動	学習指導 「能動的な学び」	○学ぶ意欲を喚起する授業方法・内容の工夫	(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 (2)ICT、遠隔講習の活用 (3)各種研修からの情報共有、研鑽 (4)資格取得等に結びつく授業実践
		○「北高スタンダード」の実践による授業規律の確立と基礎・基本を基盤とした知識・技能の定着	(1)「北高スタンダード」の実践・定着 (2)授業アンケート結果の分析・活用 (3)学習状況調査等の分析・活用
		○能動的に学ぶ授業からの有機的な家庭学習への接続	(1)能動的な授業と接続させる課題を含む教材等の工夫・改善 (2)各種研修からの情報共有、研鑽 (3)ICT、遠隔講習の活用
		○基礎診断ツール、授業評価結果等を使った PDCA サイクルの確立、単元配列表の作成・実行及びシラバスの活用	(1)授業改善に繋げる PDCA サイクルの確立 (2)単元配列表の作成・実行・教科間連携 (3)育成を目指す資質・能力の明確化させるためのシラバスの定期的な活用 (4)授業アンケート結果の分析・活用
	生徒指導 「豊かな心」	○情報共有に基づく教職員の共通認識、理解による指導を通した個々の生徒の課題解決の支援	(1)分掌主導での共通した指導 (2)教育相談の充実 (3)hyper-QU、いじめアンケート等の分析・活用・情報共有 (4)SNS 等の利用に関する情報モラルの指導
		○生徒指導の機能（共感的人間関係を育む、自己存在感を与える、自己決定の場を与える）を活かした基本的生活習慣の確立、自己指導能力の育成	(1)挨拶・言葉遣い・身だしなみ・日常生活における基本的モラルの定着 (2)安易な遅刻・早退の抑止
		○地域社会や異校種との繋がりを意識させる教育活動、生徒会活動の展開	(1)地域や異校種等と連携した教育活動 (2)地域とも連携した生徒会活動
		○民法改正等に係る取組の推進	(1)内容の精査及び文言の見直し、点検、改正
		○個に応じた特別支援、教育相談の方策及びそれを支える校内体制の充実	(1)特別支援教育の推進、関係機関との連携 (2)教育相談の充実 (3)ソーシャル・スキル・トレーニング
	キャリア・進路指導 「One-up」	○生徒個々の興味関心を引き出す多面的なキャリア学習の充実	(1)PDCA サイクルに基づく、キャリア教育年間計画の実施 (2)外部講師の活用 (3)インターンシップ
		○地域資源の有効活用による「担い手育成」を意図したキャリア学習の展開	(1)地域資源の有効活用 (2)「地域探求」「課題研究」等の実践 (3)Web ページ・各種通信等を用いたキャリア学習の紹介 (4)課題研究成果の地域への還元
		○生徒の多様な進路実現を可能とする組織的・計画的な講習等の指導体制の整備、実施	(1)適切な進路相談の実施、進路情報の提供 (2)平常時及び長期休業中の講習実施 (3)生徒個々の進路目標等の情報共有
		○多様な入試方法や新しい大学入試制度に対応した進学指導計画の整備、実施	(1)正確で迅速な情報提供 (2)各種通信等の活用、面談の実施 (3)外部講師等を含めた説明会の実施
		○各種資格取得の奨励と指導の強化	(1)資格取得のための講習実施

教育活動	健康・安全指導 「安全・安心」	○生徒が自立して健康管理を行うことができる組織的・計画的な指導	(1)「ほけんだより」の発行、掲示物の活用 (2)個別の保健指導、健康観察 (3)講話等の計画・実施
		○生徒個々の自尊感情・自己肯定感を高める取組の推進	(1)心の健康問題の早期発見 (2)適切な自己認知を促す関わり
		○いじめ防止をはじめとした人権尊重意識を高める取組の推進	(1)定期アンケートの実施・分析・対応 (2)ネットパトロール (3)講話の計画・実施
		○生徒の実態を把握するアンケートの継続実施、分析、情報共有及び指導体制の整備、充実	(1)Web ページ・文書等での情報公開 (2)玄関・巡回指導及び指導に関する情報共有 (3)教育相談の実施
		○ hyper-QU の結果、分析を用いた情報共有及び指導体制の整備、充実	(1)QU 分析会の実施、情報共有、指導体制の整備、充実

■学校運営については、管理職が主導する項目と、管理職が部長(主任)や委員長等に具体の対応を依頼する項目がある。

領域	対象	目標	今年度の目標	今年度の目標達成のための評価の観点
学校運営	地域に信頼され必要とされる学校 「情報発信」	・中学生にとって選ばれる、地域にとって必要とされる学校	(1)法令遵守、服務規律の保持・徹底 (2)あらゆる不祥事、不適切な行動(行為)の未然防止 (3)「報告・連絡・相談・確認・結果報告」の徹底 (4)地域、保護者への積極的な情報発信 (5)教職員・生徒のボランティア活動及び地域行事等への参加 (6)各種規程の見直し、修正	(1)、(2)、(3)職員打合せ、職員会議等において情報提供、啓発、研修を行ったか。 (4)「八穂の星」年2回以上の発行、「HP」は担当箇所により適宜更新するなど、常に新しい情報提供を行ったか。 (5)地域社会の一員として、地域の行事やボランティア活動に参加できたか。 (6)民法改正等に係り、見直しができたか。
	キャリア教育等を通しての地域との連携 「地域連携」	・地域との連携を深化させ、地域資源・地域人材の活用の推進	(1)キャリア学習等において講師・企業等、地域資源・人材等を理解・協力を得ながら活用する。 (2)地域と連携したキャリア学習等とおして、生徒が地域に対して、アイディアや提言を発信できるようにする。 (3)令和2年度北海道高等学校総合学科教育研究大会の準備及び開催、報告	(1)地域の理解と協力を得ながら、地域資源・人材の活用ができたか。 (2)地域に対して、アイディアや提言を発信することができたか。 (3)報告書等の発送まで、計画的に実施できたか。
	組織運営 「チーム北高」	・分掌主導による統一した指導の推進	(1)分掌、年次団が組織として力を合わせて業務を推進する。 (2)教職員がひとつのチーム「チーム北高」として、協働して業務を遂行する。 (3)カリキュラム・マネジメントの推進 (4)時間外勤務を縮減する。	(1)各組織において、分担及び協働を推進できたか。 (2)(3)全教職員が協働して、業務を遂行できたか。 (4)北海道アクション・プランに基づき定時退勤日、閉庁日等を設定・実施し、ワークライフバランスの視点を取り入れ、意識改革を図ることができたか。
		・危機管理の徹底	(1)危機管理マニュアルを整理・確認する。 (2)心と体の健康に配慮する。 (3)全教職員が日常的なコミュニケーションを行うことにより、相談しやすい環境づくりを行う。	(1)校内研修(全体研修)で周知、確認できたか。 (2)(3)管理職面談、相談の機会を適宜設定できたか。
	教職員の資質・能力向上 「教師力」	・教員・教師としての成長 (校内研修) (校外研修)	(1)教務部主管により、北高スタンダードの2つの観点に沿って授業公開を計画的に実施し、授業改善に向けた研修を深める。 (2)遠隔講習の導入への研究、実施、検証を推進する。	(1-1)目的を達成し、授業改善に繋げることができたか。 (1-2)全員が研究授業を実施できたか。 (1-3)全体研修会を実施し、次年度への課題を確認できたか。 (2)遠隔講習を実施し、次年度以降の遠隔授業導入へ繋げることができたか。
			(1)校外で実施される研修会や研究会に積極的に出席する。 (2)研修報告書を作成し、全教職員に還元する。	(1)各種研修会等の情報提供を行い、積極的に出席する機会を提供できたか。 (2-1)出席者の研修成果を全職員に還元できたか。 (2-2)年度末に「研修報告書のまとめ」を作成できたか。
			(1)「学校職員人事評価シート」を活用した面談を実施する。	(1)面談を複数回実施し、指導に係る業務と校務に係る業務について協議できたか。
	地域異校種との連携 「繋・励」	・異校種連携による情報交換、教員交流、部活動等の推進	(1)様々な場面において、せとな・今金両町の学校、施設等との交流を推進する。 (2)檜山中高連での公開授業を計画・実施する。	(1-1)各種研究会をはじめ、様々な場面において、情報交換等を行うことができたか。 (1-2)部活動やボランティア活動等とおして、交流を深めることができたか。 (2)檜山中高連での公開授業等とおして、情報交換を行うことができたか。